十八世紀から十九世紀前半までの「しかし」の用例について（承前）

但馬貴則

はじめに

さきに発表した拙稿「十九世紀前半の『しかし』の用例について　―おもに江戸の口語的資料を対象として―」（『大阪産業大学論集』人文・社会科学編　1号　平成十九年　以下「前稿」とする）では、十返舎一九の『道中膝栗毛』と式亭三馬の滑稽本における「しかし」「しかしながら」の用例を見てきたが、本稿ではそれに続けて、同じく十九世紀前半の成立となる『東海道四谷怪談』を始めとし、さらには十八世紀（一部十七世紀も含む）の資料、具体的には山東京伝の黄表紙と洒落本、江島其磧の浮世草子、浄瑠璃及び江戸歌舞伎などにおける「しかし」の用例を見てゆこうとする。

用例の検討

一、『東海道四谷怪談』（文政八～九年の台本）

凡例（基本的に前稿を踏襲する）

・古典集成本の活字テクストに拠った。
・引用に際し鉤括弧を私に補い、また異体字や省文、連綿記号などを通行のものに改めた。また引用を省略した部分については「…」を用いた。
・ト書きなどの割註と振り仮名は、原則として省略した。
・＊の後に、文脈などから考えられる仮の解釈を示した。

1、「…坊主が憎けりゃ袈裟までと、おまへの言ふのも尤もだが、今のやうに言つた日にやア、すぐに敵にけどられるわな。しかし、かう言ふこのわしが、以前はおまへの親御、四谷左門様とは同じ家中の、奥田将監が下部の直助。…」

＊二九頁　話題を「しかし」以降で転換しており、そこか

ら「それにしても」などと解し得る。

2、「今のはたしかに塩谷浪人。しかし、今一人のあの若者、古主の塩谷を思はぬ様子。さすればどうぞこつちへ引つ込み、…」

＊四六頁　前を承けつつも「それにしても」的に話題を転換する意となっている。

3、「…聞けば気の毒な事だの。親の為にかうした勤め。しかしこんな事に出ずとも、吉原へでも行つて、よい花魁になつたらよささうなものぢやアねへか」

＊七〇頁　逆接の意と解し得る。

4、「…重ねてから気をつけさつしやるがようござるぞ」「御厚志の御異見、忝なう存ずる。しかし鬱憤忘れかね、思はず知らず」

＊九九頁　文脈から「それでも」「分かってはいるが」などを含んだ逆接の意と解し得る。

5、「これにてまづは一ツの安堵。しかし、急に違つたこの姿、仲間の乞食どもが見つけたら、また面倒。…」

＊一〇〇頁　乞食に変装して敵の目をくらまそうとするくだりで、「そうはいっても」や「それにしても」など、

前を承けつつ話題を転換するごとき意と考えられる。

6、「うはべばかりの、そんなら夫婦」「これで互ひに」「力とたより」「とは言ふものゝこれがマア」「あきらめかねる女気の」「これも尤も」「しかしいつまで言つたとて」「尽きぬ名残と」「尽きせぬ縁」…

＊一一六頁　「血祭りの祝言」のくだり。逆接の意と見るべきか。

7、「…親父殿、コリヤまあ貴様、なんと思はつしやる」「イエモウなんと申してようござりませうやら。しかし、常から私が悴ながらも、正直者の役にたゝず。…」

＊一二四頁　駆け落ちした息子を遠回しに弁護する父の言葉で、「それにしても」などの、話題の転換の意と考えることができる。

8、「…相違ない品だハ。しかしそれほどに願ふ事なら、その方に免じて、一両日の日延べは致しくれうハ。…」

＊一二五頁　逆接の意と解し得るが、「それでも」などとしても通ずる。

9、「なるほど、お医者方の御判のすわつたこの唐薬、さうおつしやらば違ひもあるまい。しかし、さいはひ私が、

下質送るは深川の金子屋。主人は以前薬種屋上がり、それへ見せたるその上にて」

＊一四二頁「しかし」以降で態度を保留する旨を述べており、一応は逆接の意と解し得る。

10、「…さつきにこなたへ血の道薬と、乳母に持たせて遣はしたるは、面体かはる毒薬同然。しかし命に別条なし。…」

＊一六〇頁　逆接の意と解し得るが、「それでも」「そうはいっても」などとしても通ずる。

11、「しかし今の薬で、なぜあのやうにゝはかに苦痛を。〇」

＊一六五頁　独白で、細かい演技を伴う箇所であり、「それにしても」などの、話題の転換の意と考えることができる。

12、「それ見たか。エ、いけあたぢけねへ。しかしこれでも不足であらうが」

＊一七四頁　蚊帳を質草として、お岩から取り上げる場面で、逆接や「それにしても」などは必ずしも該当せず、「もっとも」「そうはいっても」あたりの解釈が妥当かと考えられる。

13、「ア、まだ外に男がござつたか。イヤそれは不埒千万な儀でござるナ。しかしこの方の為にはまことに合うたり叶うたり。…」

＊一九四頁　逆接の意とも「そうはいっても」とも解し得る。

14、「これはこれはあなた様のこゝろざし、まづは大慶。しかし、喜兵衛と娘のお梅殺した事は、拙者が同輩、官蔵とかれが小者にぬりつけておけば、よもやこの後この身に難儀もござるまいが、…」

＊二一三頁　文脈から「そうはいっても」「ただ」などの意と解し得る。

15、「それだからお袖さん、おまへも間男は、マアしない事だ」
「しかしこの庄七となら大事あるまい」
「おきやがれ」

＊二三三頁　逆接の意としても「それでも」「そうはいっても」としても意は通ずるか。

16、「ハ、アあの咄は禁句かネ。しかしおまへ方がかうして夫婦になつてゐるといふのも、仲人は人知らずわしがしたのだ。なんでも今夜はしつかりと御馳走がありやせうネ」

＊二五九頁「しかし」以降で話題を変えているので、「それにしても」などの意と解すべきか。

17、「…これ按摩さん、ひと療治やつて貰はうか」
「そんならたうとう按摩にするのか。わしやア足力療治で無性やたらにふんでふみこくる。それ承知なら療治さつしやるがよい」
「その荒療治がこつちの望み。しかし足力の道具はわしが貸してやりませう」
＊二七九頁「しかし」以降で緊迫した局面を迎える。意味的には話題の転換となるが、「それにしても」と訳すよりは「ところで」とする方が通ずるか。

18、「そりやはやいつたんこの与茂七、夫婦別れした女、再縁するもまゝあるならひ、しかしいまだに去状は、渡さぬからは妻女のお袖。誰が許して再縁したのだ」
＊二八一頁　逆接の意と解し得る。

19、「かはつた物と女と引かへ。しかしこつちは素人で、小間物仲間の符帳は知らぬが…」
＊二八二頁　前を承けつつ、「それにしても」と話題を転換している。

20、「…この親父はずんと工面がようござりまするぢや。しかし、金のあるふりを致すと人が貸せ貸せと言うてうるさし、…」
＊二九九頁　逆接の意と解し得る。

21、「なにか、それであそこの内が怪しいによつて、さぐりに行くのか。しかしそりやアなんぞしつかりした証拠でも無くつては、かへつてあのお熊ばゞアに逆ねぢを食ひさうな事だ」
＊三一四頁「さぐるにしても」など、逆接でも「逆接仮定」のごとき意となっている。

22、「秘蔵の得ものいづれにと、尋ね来りしあの庵、女竹に結ぶ短冊は」
「ほんに今宵は文月の七夕祭り。星合のその日に外れてこがすみは、天の川へ飛びはせまいか」
「何を阿房な。○　しかし外れたる鷹はたしかにこのあたりぢや。サ、、尋ねてくれ尋ねてくれ」
＊三五五頁　行方不明の鷹を探すくだり。○（＝演出箇所）による話題の転換で、「それにしても」などと解し得るか。

23、「…とんだ廻るハ。○　しかしあの民谷めは、こゝの娘をしめたかしらぬ。…」
＊三六七頁　場面に依存した話題の転換の意と見るべきか。

24、「それ見やしやんせ。おまへさんにはかはゆいお方、お

岩さんといふお内儀さんがあるゆゑに、いはゞわたしをお嬲りなされて」
「イヤイヤ、なんのそなたを嬲らうぞ。しかしお岩と申したる妻もあつたが、いたつて悪女。…」
＊三六九頁　相手の言葉―「おまへさんにはかはゆいお方、お岩さんといふお内儀さんがある」―に対する逆接的用法となるか。

25、「…近々高野へありつく手段。それもおまへの下された、御判のすわつた書物ゆゑ」
「それは耳より、しかし高野へ奉公と聞いたら、真面目な親父殿、わしらが心に叶はぬ事を」
＊三七八頁　逆接の意とも「そうはいっても」の意とも解し得る。

26、「なにかと貴公の心遣ひ、しからばひとまづこの場を落ち失せ」
「影を隠さつしやい隠さつしやい」
「合点だ。○　しかし路銀を」
＊三九四頁　○による演出を挟んでいることから、「それにしても」などの、「場面に依存した話題の転換」の意と考えることができる。

27、「死霊のたゝりと人殺し、どうで逃れぬ天の網。しかしいつたん逃るゝだけは」
＊三九五頁　逆接とも「それでも」「そうはいっても」とも解し得る。

二、山東京伝

凡例
・新大系本（85）の活字テクストに拠った。
・その他は基本的に『東海道四谷怪談』の方針を踏襲した（三以降も同様）

二―一、『三筋緯客気植田』（天明七年刊）

○「めりやすはなんといふ外題にしたもんだらう。四代目の瀬川が追善は花ぐもり、かなやのしろたへが追善は夏ごろもだから、やぶれごろもとでもせうか。しかしそれでは、桜姫の追善をみるやうだの」
＊三七頁　逆接の意と解し得る。

二―二、『玉磨青砥銭』（寛政二年刊）

1、「さすが女形は鋤鍬を持つ力もなきゆへ、田を植へさする。しかし今まで浄瑠璃や歌で舞台を勤めたくせが失せぬゆ

へ、どうも張合ひがないといつて、忠五郎、正二郎なぞを頼みて、後ろの畔で田植歌をうたはせ、…」

＊六七頁　地の文の例となる。後続の内容が通常の田植えではないというところから、逆接的な意を有すると見るべきか。

2、「大磯の傾城には機を織らせるつもりのところ、半襟さへ掛けゑゝねへくらゐの事ゆへ、詮方なく由比が浜にて汐を汲ませてゐきをつける。しかし女郎の事ゆへ、なんぞといふと風邪を引たの癪がいたひのといつて、役所を引たがるにはこまりける」

＊六八頁　地の文の用例となる。逆接とも、「そうはいっても」とも解し得る。

二—三、『総籬』（天明七年刊）

1、「あんさんにやあいゝものがある。きのふ長崎屋のこはんが所から隅田川をもらつた。おちせ燗をさせや。しかしさかなが何もあんめへす」

＊八一頁　「酒を呑ませてやる」と「肴がない」という前後関係から、逆接の他、「ただ」などの意も考え得る。また、「それにしても」と解して、話題の転換の意と考えることもできる。

2、「御ぞんじなくつてもな所さ」
「しかし夷狄も君ありだよ。吉原ならつけとゞけの文をやろうといふ所へ、台のものをおくりやす」

＊八五頁　岡場所を話題とした所で、文脈から逆接とも「そうはいっても」とも解し得る。

二—四、『昔話稲妻表紙』（文化三年）

〇「山三郎上京こそ幸ひなれ。かれに一さし舞せて御覧候へ。しかし彼が舞御国元にては度々御覧ありし事なれば、相人なくては興あるまじ。…」

＊一六五頁　この作品は擬古文を用いている。「たとえ舞わせるにしても」などの逆接仮定の意と解し得る。

三、江島其磧

凡例

・新大系本（78）の活字テクストに拠った。

三—一、『けいせい色三味線』（元禄十四年刊）

京之巻

1、「…惣じてかやうの太夫さま達、俄には成がたし」と申ス。
「いかにもさこそあるべし。しかし汝がはたらきにて、

もらふとやらは成まいか。…」

＊三九頁　逆接と解し得るが、「それでも」「そこを」などとしても意は通ずる。

2、「我身事御影にて廓の苦患をのがれ出、かく栄花にくらし侍る事、ふかき御恩、死てもわすれがたし。しかし御ぞんじのごとくひとりの妹を、廓にのこしうき勤をさせぬる事、此身になりて思ひやる程かわゆし。…」

＊五二頁「そうはいっても」程度の意となるか。

江戸之巻

1、清平手形をひらき見て、「尤是に偽りはあるまじ。しかしその女郎、慥に弥三にあはふといふに、証拠なければ、何共心もとなき証文なり。…」

＊一一〇頁「そうはいっても」程度の意となるか。

2、「しかし全盛の御身なれば、ふと其内に引かいてのける客が、あるまいものでなし。しからばこがれ死ににしなふかもしれず。…」

＊一一一頁「女郎を身請けしたい」という文脈から逆接と解し得るが、「それにしても」「ただ」などとしても意は通ずるか。

3、「是は旦那よい衣裳付でござります。然（しかし）素みる茶は、今時世間にはやり過て、我等がやうな粋中間の目にしみます。…」

＊一一五頁　逆接とするより「ただ」などと解する方が意は通ずるか。

4、「…まだ粋な女郎にあふたらば、馴てから酒事のおもしろい、はづみを、見おぼえ座配も能、気もこなれて自然と粋に成事もあるべし。しかし必竟此道の、極意は只金銀なり。…」

＊一一七頁　逆接の意と解し得る。

5、「其夜の事大臣手前を思召て、拙者心のごとくなり給はぬ所はよし。然しそれもいやならばいやにて、我心ひとつにておさめおかる丶、筈なるを、ほれたといふ男に印をつけて、旦那の耳に入らる丶、心根、いかにしてもむごし。…」

＊一二二頁「ほれた」以降の文脈から、逆接の意と解し得る。

大坂之巻

1、…かくおもなが（=間抜け〔脚註〕）成ル大臣にあはる、女郎、嘸や心うかるべし。

「しかし今時女郎の気に入大臣は、位斗とつて勝手にならぬ事いふにおよばず。…」

＊一四五頁　逆接とも「それにしても」の意とも取れる。

2、あづまぢは二人がわりなき心ざしを聞て

「昔生田川に身を捨し弐人も、一人の女をおもふからの恋死、おもへばいづれをいづれといひがたし。しかし留平殿にあひます事は、もしもれきこへて、世の人の謗りいやなり。是はふつふつ思ひ切つてもらひましたし。…」

＊一七〇頁　逆接とも「ただ」「そうはいっても」の意とも解し得る。

鄙之巻

1、「近比よい所で見かけられた仕合男、座付すんだらば、夕飯拙者が申つくる。用さへなくば参れ」の、「御意忝なし。しかし今日は太夫本を同道いたしたれば、私売口がござりますとて、是からひとりつきはなしてもかへされませぬ。さりとは残念至極」と申ス。

＊二〇七頁　逆接の意と解し得る。

2、「…床入はなりますまいか」と律気なる大臣にて、さし足してうかゞはるゝ。「いかにもいかにもねませいでは。しかし私が好有」と、宿の下男をまねかれ、「盆の踊りの嗜みに、前髪鬘があらば借りたい」との仰。

＊二二一頁　「ただし」「そうはいっても」などの意とすべきか。

三―二、けいせい伝授紙子（宝永七年刊）

1、「…お主のために命をすてらるゝは、是武士のねがふ所。はやく其支度をして都にのぼり給へ」といへば、「さすがは侍の女房程あり。健なる一言でかされたり。しかし京のぼりの支度をせんも銭が一文あらばこそ。何いふても貧といふ兵には、いかな武士も手むかいならず」

＊二九九頁　「そうはいっても」程度の意と解し得る。

2、誠は自分の意趣を堪忍して、主命の時進むを侍の本意といへり。しかし戦場に出て御馬の先にて討死するばかりにあらず。主の為に替りて命をはたすを、誠の忠節とはいふなるべし。

＊三五九頁　地の文の用例で、逆接とも「そうはいっても」の意とも解し得る。

三―三、世間娘気質（享保二年刊）

1、「…町中の口からはどふも申されぬ。しかしお年寄様に

はいか〻おぼし召ますぞ」
＊四〇八頁　逆接と「それにしても」などの話題の転換との両義に解し得る。

2、「仕合は真ある女房をもたれてたのもし。しかしぶ遠慮ながらこなたの妹御は内儀にかはつて又なきふ孝者。…」
＊四八七頁　逆接の意と解し得る。

3、「私むまれてより只今までつゐに悪といふ物はどんな色やら存じませぬ。しかし爰にひとつ心にかゝるは、…」
＊四九八頁　後に姦通を懺悔するくだりが続くことから、逆接の意と解し得る。

四、『浄瑠璃集』

凡例
・古典集成本の活字テクストに拠った。

四―一、『傾城八花形』（元禄十五年上演か）

1、「慇懃な御礼までもなきことよ。しかし卒爾なことながら。この絵はおまへの親御より伝はる家の重宝か。…」
＊一七頁「それにしても」などの話題転換、あるいは発語的用法となるか。

2、「…ちよつと見に来るばかりさへ　金の二杯も三杯も。つかうて見物する女房かね儲けるは見えたこと。さりながら大切な。人の女房で候へば高でならぬは知れたこと。しかし亭主も浪人で。眼病ゆゑにびつしやりと。身代つぶれしことなれば。…」
＊五二頁　逆接の意と解し得る。

3、「いかさまこれはもつともなり。しかしこの証文に請人肝煎りなひまぜの弥太八と判形あり。この仁はいづくにぞ…」
＊五九頁　逆接とも「そうはいっても」とも解し得る。

4、「…ねをびれたるを討つて捨て。卒爾に奥へ切り込まんしかし高塀越すべきに。足代なくては乗られまじ…」
＊九七頁　逆接と「それにしても」のごとき話題の転換との両義に解し得る。

四―二、『傾城三度笠』（宝永二～正徳五年の上演か）

1、「…忠兵衛宿にゐるならば　こなたをただは帰すまい。しかし皮引きや身がつくと姪がふびんに候へば。隠密にしてやりませう…」
＊一一一頁　逆接とも「そうはいっても」とも解し得る。

2、「こちから無心いうたればそちの願ひもかなへるはづ。しかしその梅川とやらには。そちが懇志な利右衛門殿と。いつのまにやら深うなり　身請けの相談きはまりて。…」

＊一一八頁　逆接の意となるか。

3、「利右衛門めが何ほどに　はり合ひかけてきをるとも。この金にては埒があく。しかしこれまた分別どころ。人の物をかすめるからは　わが首はないもの。…」

＊一二〇頁　逆接とも「そうはいっても」の意とも解し得る。

4、「…親仁が手前不首尾ゆゑ。内から銀が出しにくさに 今日までは不埒せし。しかし先ほどさる方へ　無心をいうてやつたれば。明日用に立てんとのこと。…」

＊一二三頁　逆接の意とも「そうはいっても」「それでも」などとも解し得る。

5、「…取り逃がしては地下中が　いかう迷惑することぢや。かならず沙汰をいたすなと午王のうらに判させた。しかしそれがしが心中には。たとへ神罰受くるとも。…」

＊一四七頁　逆接の意とも「そうはいっても」「それでも」などとも解し得る。

四―三、『仮名手本忠臣蔵』（寛延元年上演）

1、「…お慮外ながらこの返歌を　お前のお手からすぐに師直さまへ。お渡しなされ下さりませと伝へよ。しかし。お取込みのなか　間ちがふまいものでなし。マア今宵はよしにせうとのおことば。…」

＊一七九頁　逡巡を経た上での逆接の意と解すべきか。

2、「…先君の御廟所へ。御石碑を建立せんとの催し。しかしわれわれとても浪人の身の上。…」

＊二〇六頁　「ただ」「そうはいっても」などの意と解すべきか。

3、「…天河屋の義平は。武士もおよばぬ男気な者と。由良殿が見込み　大事をお頼み申されたももつとも。しかし槍　薙刀は格別。（中略）お買ひなさるるに　不思議は立ちませなんだかな」

＊二八四頁　「それでも」「そうはいっても」などの意と解し得る。

四―四、『桂川連理柵』（安永五年初演）

1、「…ただし嫁入りのならぬやうな。色事でもあつてのこ

とか。ナア申し長右衛門様」「なんのそんなことがあるぞいな。しかしそのやうに。あたまごなしにいうては　合点がいくまい。…」

＊三三八頁「それにしても」などの話題の転換や、「そうはいっても」などの意と解し得る。

2、「俺や面が被りたい。堪忍してたも。堪へてたも。しかしこれもさつぱり埒あけてしまうたれば。どこへなりとも嫁入りせう。…」

＊三六八頁「それにしても」などの話題の転換の意と解すべきか。

五、『江戸歌舞伎集』

凡例

・新大系本（96）の活字テクストに拠った。

五―一、『参会名護屋』（大福帳に「元禄十年」とあり）

1、「いよいよ三木の丞が盗みたるに極まつた。縄をかけ、引べし」とて、御前をさしてあがりけり。

山名、名護屋、気の毒がりけり、名護屋申様、「しかし、是は御姫様の、もしものことも有ならばと思召、自害せんと思召、お姫様の手前にあらん」

＊九頁「三木の丞を拘引する」という事態の事情を打ち消す、という文脈となるので、本来続くであろう「そうではなく」などが省かれていると考えれば、逆接の意と解し得る。

2、「めでたい。しかし、身が絵馬を懸け替へんとするに止める。身が絵馬は、かたじけなくも禁裏にて、雷を従へた剣じゃ、春王が奉納には是がよい、…」

＊一五頁　逆接とも「そうはいっても」とも解し得る。

3、「なるほど、伴左衛門が紋所、三升也、しかし頭が違ふた、頭は総髪じや」

＊一九頁　逆接の意と解し得る。

4、「山三とか、これはいやしもしい所作言いじや、しかし晩に礼をいはん」

＊二四頁　逆接の意とも「それでも」とも解し得る。

五―二、『傾城阿佐間曾我』（元禄十六年上演）

1、「いかにも、介経親子は、われわれがためにも舅の敵なれば、五郎殿のために討たんと有はきこへた、しかし、をれを人でなしといはんより、そちが道知らずじや、…」

＊五二頁　逆接の意とも「そうはいっても」とも解し得る。

2、「さりとは、よしなき色に貪著なさるゝゆへ、母の勘気、又は重忠の不通、しかし、某めは、ふと申かはした中なれば、此所迄も参り、御異見を申ます、ひらにお帰りなされい」

＊五四頁　逆接の意とも「それでも」とも解し得る。

五―三、『御摂勧進帳』（安永二年顔見世）

○「…只、強力の姿にて、笠深々と召し給ひ、随分と疲れ給ひし御姿にて、我々よりも引き下つて御通り遊ばされ、然るべう存じ奉りまする」

「いかさま、是は尤成る広綱が計らい。しかしながら此所を立越んにも、武蔵坊弁慶、道に遅れしゆへ、此所にて待合せ、我々もろとも通らいでは」

＊一八五頁「しかしながら」の用例で、逆接の意とも「そうはいっても」とも解し得る。

（附記）用例の詳細な検討及び考察については稿を改めて述べることとする。

平成二十一年十月二十八日　原稿受理

大阪産業大学　教養部非常勤講師